光明寺だより

第７９号
平成２９年1月発行
眞言宗　光明寺
宇都宮市野沢町３４２
TEL　665－0545
FAX　665－5422

智山勤行式（No.10）

般若心経(三)

①菩提薩埵 依般若波羅蜜
多故 心無罣礙

②無罣礙故 無有恐怖 遠離
一切顛倒夢想 究竟涅槃

③三世諸佛 依般若波羅蜜
多故 得阿耨多羅三藐三
菩提

【口語訳】

①菩薩は般若波羅蜜多に依って心に何の妨げもなくなります。

②心に何の妨げもないので、恐れがなく、ないものをあると考えるようなことを一切せず、安らかな解放された境地に達しています。

③三世（過去・現在・未来）にいらっしゃる仏さまも、般若波羅蜜多に依って無上の完全なさとりを成就しています。

【解　説】

前回、前前回では、物事はあらゆる要素によって成り立っていると説明しました。例えば一輪の花を咲かせるには、種子があり、土壌があり、水があり、太陽の光があり、様々な要因により一輪の花を咲かせるのです。今の自分が存在するのも同様です。自分の努力はもちろんのこと、命を繋いでくれた先祖がおり、秩序保たれた社会があり、支えあうパートナーがおり、育ててくれた親がいるから自分が存在するのです。

文中にある「菩薩」とは、人のために尽くし、相手の身になって考え行動する人たちのことを言います。今の自分が存在する要因がわかっているからこそ、人にやさしくなれるのでしょうね。「仏さま」も同じです。苦しい・つらい経験をしたからこそ人々を救える術があるのです。誰にでも心の中には「仏さま」がおります。カッとなるとき、イライラしたとき、自分のこころにある「仏さま」はどんな顔をするのでしょうか。

今年一年皆さまにとって良い年であるようご祈念申し上げます。

※智山勤行式は、真言宗智山派がお檀家様向けに作ったお経本です。興味のある方はお寺にお声掛けください。

指導師範による模範奉詠

謹賀新年

初春のお慶びを申し上げます

新年明けましておめでとうございます。当山檀信徒の皆様にはお変わりなくお過ごしのこと拝察申し上げます。平成二十八年もつつがなく越し、平成二十九年（2017）丁酉（ひのととり）がやってまいりました。昨年の私の心に残る思い出としては、全国奉詠栃木大会、ご本山での一週間にわたる御詠歌指導、西国巡礼（和歌山方面）が印象に残っています。

照行和尚（酉年生まれ）も今年で七回忌、東日本大震災から六年が経ちました。本当に早いものです。酉のつく年は商売繁盛に繋がる縁起の良い年（酉の市など）、物事が頂点まで極まった年とも言われております。

酉年の人は、鋭い直感力、決断に迷いがない、行動力抜群、親切で面倒見が良い、社交性抜群と良い事ずくめですが、その一方で、本音を隠したがる、駄目だと判断したらすぐあきらめる、プライドが高い、神経質だそうです。

今年の目標は、積極的な活動をそしてその成果が得られる年にしたいです。

住職記

光明寺四季の諷詠（No.48）

五感の衰え　十首　　恵　華

○庭樹々の　手入れのすみて　光さし
　幼なの姿　いとおしくみる

○大般若　お札にそえし　お守りに
　若き二人の　み名もありたり

○ご詠歌の　み堂にひびき　大般若
　おごそかにして　いまはじまりぬ

○衆僧の　読経ありがたし　焼香に
　散華舞い散る　み堂のなかに

○夫逝きて　六年たちぬ　語らいの
　少なき日々に　五感は鈍し

○どうしよう　五感の衰え　思いつつ
　日々の過ぎゆく　かなしみのあり

○巡礼に　声はりあげて　となえたる
　在家勤行　思いいだしぬ

○日に三度　在家勤行　となえつつ
　食事をすます　日課となりぬ

○日にましに　五感はもどる　よろこびに
　声高らかに　なりしとおもう

○いつしかに　般若心経　口ずさむ
　このごろのわれ　やすらぎのあり

副住職 両大会 成満

長年の修行が終わり、総本山智積院にて「両大会（りょうだいえ）」を勤修し「大阿闍梨（だいあじゃり）」となることができました。両大会とは、「伝法大会（でんぽうだいえ）」と「伝法灌頂（でんぽうかんじょう）」のことをいいます。「伝法大会」とは真言宗の僧侶が教理上の研修をおさめることです。「伝法灌頂」とは、真言宗の教えを弟子に伝える実践上の研修です。つまり教理と実践、両方を修めたものが「大阿闍梨」となるのです。お陰様で無魔成満することができました。

これからも光明寺檀信徒のためにさらなる研鑽を積み、少しでも力になれればと思う所存です。

十九夜様 法要

古来より野沢女人講中、陰暦師走の十九日、十九夜塔に和讃を奉じ講中女人の身体健全・安産を祈念しておりました。

昨年も十二月十九日本堂前の十九夜様に、野沢地区の女人講の皆さんと自治会の役員さんが集い、十九夜様（如意輪観自在尊）の前で法要、御詠歌をおとなえしました。その後、皆さんが持ち寄った甘酒、お赤飯、お漬物などで、お食事をいただきました。

「来年も健康に
過ごせますように」
「元気な子が
産まれますように」
願いを込めて。

謹賀新年

代表役員	藤村　眞琴
責任役員	藤村　真行
筆頭総代	荒井　英治
総代	高橋　修一
総代	坂本　明
総代	松本　国彦
会計監査	片山　泰男
会計監査	村田　久男
会計	別井　実
会計	藤村　真行

下金井 世話人	斉藤　幹夫
世話人	中山　栄二
世話人	小杉　哲男
宝木本町 世話人	冨貴沢太一
世話人	藤野　茂雄
世話人	中山　幸彦
世話人	川久保敏男
世話人	田野実征男
世話人	高橋　伸康
野沢 世話人	斎藤　誠
世話人	山田　健一
世話人	山口　英夫
世話人	中山　利久
世話人	中山　昌司
世話人	新山　洋二
世話人	白石　君郎

世話人	中山　信一
大谷 世話人	手塚　幸一
細谷 世話人	森田　道雄
世話人	岩上　芳弘
世話人	荒井　一夫
世話人	田村　勝巳
世話人	大澤　義晴
世話人	村田　和昭
若草 世話人	関　道夫
世話人	横川　秀元
世話人	斉藤　慎輔
戸祭（上中） 世話人	橋本　宏
世話人	田村　信一
世話人	金沢　和美
世話人	永井　一郎
世話人	酒沢　芳雄
宝木 世話人	今泉　守
世話人	大森　章
世話人	川口　賢一
世話人	井上　俊邦
世話人	井上　明
市内 世話人	荒井　章雄

（順不同・敬称略）

編集後記

◎去る平成二十八年十二月四日父の実家、茂木町河又金蔵院住職、工藤忠道（叔父）が、遷化しました（世寿七十九歳）長い間、当山の責任役員をしていただいておりました。お世話になりました。ご冥福をお祈り致します。

◎密厳流全国奉詠栃木大会が無事終わりました。宇都宮での開催で、地元連合会長として連絡調整、準備など気をつかいましたが、無事、終わり、ホッとしました。

◎上横霊園に別院（護摩堂）を建立するため準備をしています。市街化調整区域のため、規制が有り、先ずは役所への書類提出のための準備を行っています。

◎御年賀に同封の、智山御宝暦を是非ご活用ください。

住職記